昭和31年2月20日第三種郵便物認可　平成29年7月6日発行（木曜日発行）（6月29日発売）第62巻第26号

週刊新潮

7月6日号
400円

26

特集

「海老蔵」は三度過ちを犯した！
「小林麻央」の命を奪った忌わしき「民間療法」

悲劇の底が抜けたように

小林麻央オフィシャルブログより

7年前の結婚式での輝き

去る6月23日、市川海老蔵が自身の舞台公演の合間に、しかも予定時間を大幅に超える20分を掛けて訴えたかったのは、幸福とは何かということだった。例えば、麻央さんがよく話していた言葉について問われ、時に震える声でこう答えている。

〈自分よりも相手のことを心配する優しさ。（中略）どこまでも自分よりも相手のことを思う気持ち。これがね。一番多かったですね〉

新明解国語辞典に当たると、【幸福】の隣には【口腹】が並び、「食欲」に続いて、「言うことと心の中で思っていること」と意味が記されている。

号泣会見では出てくることはなかったが、心のうちに去来し、響いていたフレーズがあったはずだ。

あの過ちを消すことができるなら。あの日に引き返すことができたならば……。

事実、麻央さんが昨年9月に始めたブログには、こんな記述もあった。

〈あのとき、／もっと自分の身体を大切にすればよかった／あのとき、／もうひとつ病院に行けばよかった／あのときの、／信じなければよかった〉（9月4日）

ならば、彼女の病歴を振り返っておかねばなるまい。

2014年2月、PL東京健康管理センターで人間ドックを受けた際、左乳房に「しこり」が見つかった。「精査すべし」と判断が下り、虎の門病院へ。診察を受けたところ、腫瘍の存在が確認されたうえで、

「若い女性に多い良性の乳腺線維腺腫に見受けられたようです。全く問題がなさそうなら半年後と言うのですが、白黒はっきりしないので〝3カ月後に来てください〟と伝えたのです。彼女のブログには〈「授乳中のしこりですし、心配いらないですよ。半年後くらいに、念のため、また診てみましょう」と言われました〉と綴られていますが……」

と、虎の門関係者。ところが、麻央さんは多忙だったためか、受診が遅れ、再検査を受けたのはその8カ月後だった。これが1つ目の過ちである。

「その時にがんが見つかり、針生検の結果、脇のリンパ節への転移がわかった。比較的、進行が速かったけれどこの段階で治療に取りかかれば5年生存率は90％超。当然、標準治療を勧めたのですが、麻央さん側は首を縦に振らなかったと言います」（同）

この、標準治療拒否が過ちその2だ。日本乳癌学会元理事長で帝京大医学部附属新宿クリニックの池田正氏が、こう疑義を呈する。

「標準治療とは、がんのタイプとステージを見て、手術と放射線、抗がん剤にホルモン療法、そして分子標的治療薬を組み合わせて治療していくものです。麻央さんの場合、抗がん剤を先にやって小さくしてから手術するという方法もありました。乳房を温存できればそうするし、無理でも再建という手がある。ですから、標準治療を受けなかったのなら、その点は疑問です」

そもそも、乳がん自体は命に影響を与えるものではない。しかしながら、それが他の臓器などへ転移した時に生命へとかかわってくる。どうしても乳房を失いたくないという女心の切なさゆえのことだったのか。

いずれにせよ標準治療から遠ざかったのは事実だが、その理由は定かではない。

つまり14年10月から、16年6月9日にスポーツ報知が〈麻央夫人 進行性がん〉とスクープし、これを受けた会見で海老蔵が乳がんだと認めるまで、いや、その後も含めて、どこで何をしていたのか判然としなかった。がんもどき理論で知られる近藤誠医師のセカンドオピニオン外来へ顔を出していたと噂されたものの、当の近藤氏は、

「それは嘘だ。僕の言っていることに関心はあっただろうけど、少なくとも僕のところには来ていません」

と否定。更に、「全身がん」で知られる女優・樹木希林が、自身が足繁く通うクリニックへの通院を勧めたと取り沙汰されたが、

「海老蔵さんとはご近所さんですが、交流はないのよ」

と樹木当人は言うばかり。

だが、ここへきてその一端が伝わってきたのである。

気功から聖路加へ

ウェブ検索すると、「気功でがんが小さくなりました」などと掲げるページが少なくない。そのひとつを主宰する人物に尋ねると、

「50代の女性で〝末期の乳がん〟と1年前に宣告を受けた方を受け持っています。患部が真っ黒でボコボコ、いまにも〝噴火〟というか中身がこぼれ出そうな状態になっていました。さる病院で、〝もう手術ができないので抗がん剤治療だけやりましょう〟と言われたそうです。でも、〝治らないのに抗がん剤治療を受けてつるっぱげになって亡くなりたくない。免疫力を高めて欲しい〟と、私のところへやってきた。昨年の8月から通っておられるのですが、

事情を知る関係者は、

「気功に頼っていたのです。いわゆる標準治療は全くしていなかったと言います」

と告白する。

気功……。過ちその3である。がん治療に対し、何ら科学的根拠のないこの療法へ夫妻をそそのかしたものは何か。あるいは、元々そういった精神性の持ち主だったのか。海老蔵が女性風水師やゲイの占い師に傾倒するさまはかねてより報じられてきた。そのスピリチュアル寄りの行状が気功療法を手繰り寄せた可能性は否定できまい。

乳がんとの2年8カ月の闘いの末、天に召された小林麻央さん（享年34）。その中で夫・市川海老蔵（39）は三度に亘って過ちを犯していたという。病院での再検査を急ぎ、標準治療を受け入れ、命を奪うことになる忌わしき「民間療法」を拒絶すべきだった――。

霊芝ご愛飲の皆様に、おトクなニュースです！

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも研究用に採用された

高品質
飛騨霊芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、この価格が実現しました。三十年以上にわたる科学的研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛騨霊芝」です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用霊芝として採用されています。※「飛騨霊芝」は商標です。

1kg（10ヶ月分）30,000円
500g 17,000円（各税込／送料無料）

だから長期愛飲者にこそ、自信を持ってお勧めします。

ご注文・お問合せ
http://www.dai1-yakusan.co.jp/
飛騨霊芝 第一薬産 検索
0120-32-0963

※姿・きざみ・粉末等ご要望に応じます。
※開封前、着後7日間は返品可（返送料申込者負担）

第一薬産株式会社 〒506-0003 岐阜県高山市本母町59

いまだに仕事もされ、元気に過ごしていますよ」

どんな施術なのか。

「ベッドで仰向けの患者さんに私の掌をかざして気を通していきます。大きなエネルギーが通る背骨の真ん中を目がけてね。結局、すべての物質は波動から成っている。病気になるのは身体の波動力エネルギーが落ちているから。シータ波が……」

……要するに、そうやって免疫力を高めてがんの増殖を抑え込むのだという。

麻央さんに気がどんどん送られ、免疫力も高まる……そんなはずはなかった。

それが証拠に病状は悪化の一途を辿る。そんな中、変化があったのは16年2月のことである。事情に明るい関係者は、

「北陸地方の小林家と縁の深い医師が現状を知り、〝とんでもない〟と。繋がりのある聖路加（国際病院）と連絡を取り合って入院させたんです」

と話す。虎の門での標準治療を拒んでから、優に1年4カ月が経過している。聖路加の関係者によると、

「気功療法というか、全く療法にならないことを続けたせいで、瀕死の状況でした。リンパ腺が瘤のように腫れあがっていたのです」

実際に成田屋関係者は、

「麻央さんはぐっと痩せてきて、乳房から膿が出るなどしていました。食べ物が腐ったようなすえた臭いがきつくなったり、ガーゼを頻繁に取り換えなければならなくなったりしたので、いずれにしても入院せざるを得なかったんです」

と振り返るし、海老蔵自身も当時の会見で、

足を引っ張るエセ医学

改めてそこから頼った先が、他ならぬ北島政樹国際医療福祉大名誉学長である。

「慶應の医学部長や大学病院長もやった北島さんは王貞治さんの胃がん手術で主治医を務めるなど、重鎮です。既にステージ4だった麻央さんのQOL手術が喫緊の課題である中、様々な状況に鑑みて慶應病院がその受け入れ先にふさわしいと判断し、小林家と縁の深い医師に推薦したのです」（前出・事情に明るい関係者）

北島氏に聞くと、紹介自体は否定せず、

「いやいや、時機が来たら」

という口ぶりだった。

海老蔵は過去に、

「夏（を越すの）は絶対無理だと思った」

と語っていたが、慶應でのQOL手術の結果、秋、冬を越え、そして春を迎えるに至ったのである。

「比較的深刻であり、いま抗がん剤治療をやっている。ずっと探りながら、良かったり良くなかったりを繰り返しながら、手術をする方向です」

と打ち明けている。ただ、

「医師と夫婦側のコミュニケーションが不調で手術にまで至らなかった」（先の聖路加関係者）

ようで、バトンは再び北陸地方の医師に戻された。

その後も夫妻はうんと高額な米国での治療を希望し、本格的な調査を重ねていたという。

「がん難民」にセカンドオピニオンを提供する、東京オンコロジークリニックの大場大氏はこう評する。

「〝治りたい！〟と願いながらも、重要な意思決定を惑わしたり、足を引っ張るエセ医学の影響が、ひょっとしたら麻央さんの周辺にも忍び寄ってきたのではないでしょうか。利益と不利益を勘案しながら、治ることを目標としてベストを尽くす方向になぜ、麻央さんを導いてあげる事が出来なかったのでしょうか。『切らずに治す身体に優しいがん治療』『食事療法でがんが消える』『免疫力でがんを治す』『がん自然治癒力アップ』等々。藁にもすがりたい心理につけ込むエセ情報が氾濫しているわけですが、現実にそのようなうまい秘訣は存在しないのです」

遅きに失したセカンドオピニオンということになる。

小林麻央　がんとの闘い

2014年	2月某日	PL東京健康管理センターで人間ドックを受診。左乳房に腫瘤が見つかる。その後、虎の門病院で検査を受け、3カ月後に再検査することを提案される
	10月某日	左乳房に「パチンコ玉のようなしこり」を発見。「その場で、病院に電話をし、診察の予約」をする
	10月11日	虎の門病院で再検査。10日後の生検の結果、脇のリンパ節へも転移していたことが発覚。抗がん剤治療、ホルモン療法など複数の治療法を提示される
2015年	11月1日	勘玄くんが歌舞伎座にて初お目見え
2016年	6月9日	海老蔵記者会見「麻央が乳がん、手術する方向」
	9月1日	ブログ「KOKORO.」を開設
	9月4日	ブログに〈あのとき、／もっと自分の身体を大切にすればよかった／あのとき、／もうひとつ病院に行けばよかった／あのとき、／信じなければよかった〉と書く
	9月20日	肺や骨への転移を公表
	10月1日	慶應病院でQOL手術を受けたことを公表
2017年	1月6日	放射線治療を再開したことを報告
	1月12日	胸に皮膚転移があり、お腹にも同様の可能性があることが判明
	4月22日	再々入院
	5月11日	鎖骨下の血管に点滴用のポートを埋め込む手術を報告
	5月26日	顎にがんが転移していたと公表
	5月29日	在宅医療に切り替え
	6月22日	死去
	6月23日	海老蔵記者会見

いじめないで

都議選で出る所に出られない安倍官邸の面々

顔に出来たシミをメイクで隠そうとすると、かえって目立ってしまうという。同様に、加計学園問題から噴出した一連の〝黒ズミ〟がより鮮明になりつつあるのだから、皮肉である。

6月26日、安倍総理が文京区内の小学校で都議候補の応援演説に立った。都議選に入るのは初めてだったが、案の定、加計問題には触れず。ため息をつくのは、都連所属の自民党議員。

「告示前から再三、応援に入ってもらえるように官邸に要請していました。ようやく、ですね」

政治部デスクによれば、

「都連会長の下村博文さんは以前、〝土日に入ってもらい、重点区を回るのが理想だ〟と話していたんですけどね。ところが、17、18日の自民党の調査は都民Fが自民を2議席リード。翌週には4議席に差は広がりました。ヤジを浴びないよう、官邸は、加計を想起させる人をなるべく投入したくなかったのです」

さらに本誌報道で、豊田真由子議員の常軌を逸した「絶叫暴力」が白日の下に曝されたこともあり、

「22日に党本部で開かれた都連の結団式にも総理は来ず、下村さんは不満をにじませていた。苦肉の策として、ヤジの少ない〝ハコモノ〟での総理応援が検討されたのです」（同）

それが26日の演説だった。

官邸の他の面々も、

「菅官房長官は25日に町田に入ったものの、演説は減らす意向。萩生田官房副長官に至っては、地元である八王子の第一声に参加しませんでした」（同）

当の萩生田氏は記者に苦しい釈明をしている。

「告示日に萩生田さんが演説をすると聞き、番記者は八王子に向かっていたのですが、急遽中止に。理由は、〝（緊急時の）在京当番だ〟という連絡だったのに、その日は菅さんがいたので、官邸にいる必要はなかった。すると、〝会議があった〟と言い訳を変えた上、〝ドタキャンと書くな〟というお達しまで出したのです」（同）

厚化粧でも隠せない、官邸のドタバタ劇である。

山東昭子が汗をかく新麻生派〝改名〟劇

7月3日、山東派と谷垣グループの一部と合流し、お披露目予定の「新麻生派」。会長となる麻生太郎財務相(76)からすれば派閥拡大への一歩となるが、悩ましきはその名称である。

いよいよ船出

麻生派関係者の話。

「現在の為公会（麻生派）の由来は中国の古典『礼記』の一節。麻生氏の座右の銘で、政治は民のもの、という意味があります。同様に、新派閥も、新しい名称が必要になる。山東昭子さんが張り切っていてね、女優時代からの知人である高野山の僧侶に頼んだそうですよ」

その僧侶は法印と呼ばれる高野山真言宗最高位の僧職を務めたことがあり、平たく言うと、とっても偉い人。当の僧侶が言う。

「確かに相談を受け、古典から現代まで1000冊もの本を引っ張り出して、考えました。1週間ほど前にこんな名前がいいのではないかと、複数の候補をペンでしたため、FAXで山東さんにお送りしましたよ。あくまで参考資料で、お選びになるのはあちらです」

言わば、高僧としての叡智を結集して考えだしたのだとか。これに戸惑うのが麻生派陣営である。

「麻生さんはあくまで社交辞令として、何かいい候補はないかと、山東さんに打診したそう。為公会という名も自身で考えたので、今回も新派閥の会長になる麻生さんが決めることになるでしょう。どうやら、高野山と聞いて、困惑しているようです」（先の関係者）

その山東氏が言う。

「派閥名については、私と麻生さんで決めることになりました。その候補は麻生さんに渡しましたけど、決定はしていません」

新派閥の顔となるご両人、手を携えて〝同行二人〟といきたいところ――。